

瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくるワークショップ実施レポート

第2回<基本編 2>：「図書館の本・資料・情報」「図書館と地域性、瑞穂町の日常」を考えよう

■日時：2019年10月20日（日）13:30～16:00（13:00開場）

■開催場所：瑞穂町ふれあいセンター 大会議室2、大会議室3

■参加人数：43名

実施スケジュール

瑞穂町の図書館をつくる～図書館という体験をデザインしよう～

瑞穂町の図書館をみんなで考えつくるワークショップ：第2回<基本編 2>
「図書館の本・資料・情報」「図書館と地域性、瑞穂町の日常」を考えよう

01

第1部 オリエンテーション：13:30 - 14:10

- 1) [全体] あいさつ・瑞穂町図書館のこれからの動き：町田館長（4分）
- 2) [全体] 図書館協議会メンバー紹介・会長あいさつ：町田館長（5分）
- 3) [全体] ファシリテーター紹介：町田館長（1分）
- 4) [全体] オリエンテーション・第1回の振り返り：ファシリテーター（15分）
- 5) [チーム] チーム内自己紹介（5分）
- 6) [チーム] 第1回のチーム内振り返り（10分）

02

第2部 発見しよう、共有しよう：14:10 - 15:25

- 1) [全体] 図書館の資料／ライブラリー（一部）紹介：古川司書（5分）
- 2) [チーム] 「図書館の本・資料・情報」「図書館と地域性、瑞穂町の日常」を考え、書き出してみよう（40分／20分+20分）
<休憩（10分）>
- 3) [チーム] 発見創造したことを共有し、みんなでシートにまとめよう（20分）

03

第3部 発表：15:25 - 16:00

- 1) [全体] 発表（25分）
- 2) [全体] 感想：設計者、町田館長（10分）
- 3) [全体] 写真撮影

取り組んだテーマ

3
図書館の
本・資料・情報

a. 新しい図書館にはどんな本があるといいでしょう？

b. 新しい図書館には本以外にはどんな資料があるといいでしょう？
例）電子書籍、CD、DVD、ビデオ、紙芝居、
デジタル化資料（デジタルアーカイブ）、インターネット資料など

c. 新しい図書館でどんな情報を知りたいでしょう？
例）暮らし、子育て、趣味、仕事、農業、学び、遊び、観光、健康、芸術など

4
図書館と地域性
瑞穂町の日常

a. 町民のみなさんが感じる瑞穂町らしさって何でしょう？

b. 瑞穂町らしい図書館って何でしょう？

c. 新しい図書館ができたならまちや地域はどう変わるでしょう？

**図書館整備段階だけでなく開館後も
つくりながら、使いながら考えていくテーマ**

各班のまとめ

A 班

<図書館の本・資料・情報>

- 図書館を利用しているみなさんの求めているものは今の図書館にないものであり、利用していない人は今の図書館にもあるような本や資料も挙げていた。
- 利用したことがない人にとって、図書館にどのような本、資料があるのかがわかるよいと思う。

<図書館の地域性、瑞穂町の日常>

- 「町に映画館がないので活字だけでなく映像が見たい」といった声が<図書館の本・資料・情報>であったが、これも地域固有の課題として検討の必要がある。
- 「交通の便の悪さ」という地域の課題をポジティブにとらえて歩くことで健康につなげる、といった発想の転換が参加者のみなさんから出てきたのは非常によかった。ワークショップの中でこういった発想を育てていけるとよいと思う。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



B 班

<図書館の本・資料・情報>

- 求める資料では瑞穂町に特化した地域資料について多く意見交換していた。
- 瑞穂町のお祭りや狭山丘陵、大瀧詠一氏等の地域資料を提供することで、町外の人からも瑞穂町に関心を持ってもらえるようにしたいという意見が多かった。

<図書館の地域性、瑞穂町の日常>

- 地域性の中で、瑞穂中学校や瑞穂農芸高校との連携が挙げられていたが、具体的にどのようにしていきたいか、今後考えていくべき課題ができた。
- 土日開館している図書館が町のインフォメーションセンターとして、何か新たな発信ができるのではという提案もあった。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



C 班

<図書館の本・資料・情報>

- 地域資料（郷土資料、郷土料理、音楽）について、それらを展示することに関しての意見が多かった。
- 郷土料理の作りかたを教えてもらえたり、大瀧詠一氏に関する音楽が聴けたり、体験を通じて情報を得られることへの関心も感じられた。

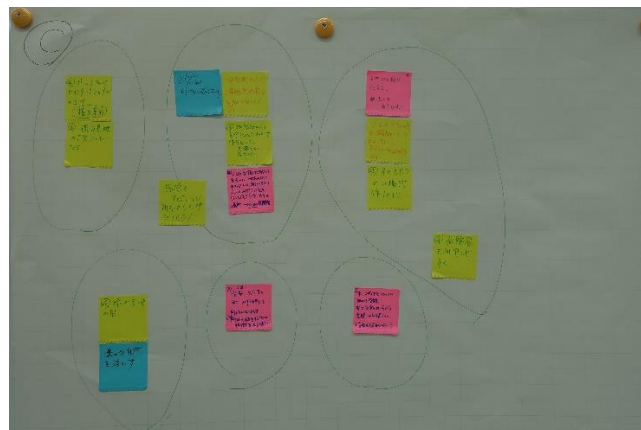
<図書館の地域性、瑞穂町の日常>

- 町外の参加者から積極的に瑞穂町のいいところが聞けた（音楽、文学、散歩道、自然等）。同時に、それらの特徴と図書館とをどのように結び付け、発信していくかについては今後考えるべき課題かと思う。
- みずほ学を学んだ子どもたちは大人よりもみずほについて詳しい背景があるそうで、子どもから大人へ学びを伝えられたらよいのではとの意見もあった。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



D 班

<図書館の本・資料・情報>

- 求める資料としては、物語を中心に実用書等幅広く意見が出たほか、幼児用の「清潔」な本や、データベース（新聞系の有料 DB や音楽配信）の希望も出た。
- 「他の人のおススメの本」がほしいという意見に多くの人が同意していた。情報があふれるなか、具体的な本やジャンルよりも、どんな本が必要なのかという情報の重要性が浮かび上がった。

<図書館の地域性、瑞穂町の日常>

- 自然に恵まれていることや、地場産業（畜産や農業やみずほブランド）が瑞穂町のよいところとしてあげられており、図書館でもそのよさを活かす取組（展示やイベント開催）が提案された。
- 瑞穂農芸高校名物のクッキーと狭山茶を図書館で提供することから始めてみてはどうかという具体的な提案が出たほか、近隣施設や地元企業との連携の提案もあり、身近なものの組み合わせで地域性や瑞穂町らしさが出せるのではないかと期待がふくらんだ。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



E 班

<図書館の本・資料・情報>

- 幼稚園・保育園児向けの本はかなりあるが、高齢者施設でのレクリエーション関連の本などを充実させてほしいという意見や、若い世代にも魅力のある CD (K-POP 含む) や DVD などをもっと増やしてほしいという意見があった。
- 参加者の中に村山大島紬や織物などに造詣が深い方が多く、村山大島紬の生地の見本を持参していただいた方のサンプルを見て、しおりやブックカバーにしてみてもいいという意見もあった。

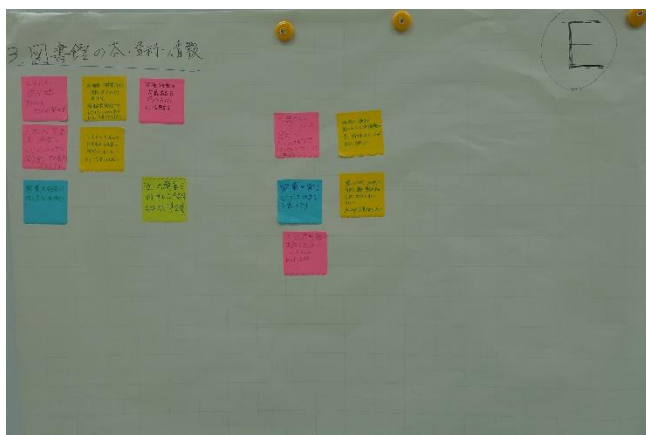
<図書館の地域性、瑞穂町の日常>

- 学校が近いので、中高生が利用しやすい閲覧室があると良いという意見や、瑞穂町は若い農業者が多いので、農業従事者向けの本や子どもが野菜などについて学べる本があるといいという意見があった。
- 駐車場が少ないことを逆手に取り、あえて箱根ヶ崎駅から図書館まで歩いていただくことで認知症予防にもなるし、商店街などを見ていただきたいという意見があった。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



<集合写真>



以上